

蜂谷戸防災かわら版

第14号

平成27年2月3日

小川自治会

蜂谷戸支隊

情報・広報班

自分の命は自分で守ろう！

「近助」と「自守防災」！

昨年は、火山噴火、地震、爆弾低気圧等災害の多い一年でした。今年は災害が少ないことを祈りたいと思います。今月号では、昨年の長野地震から学ぶことと非常用品備蓄の原則を採り上げました。

自主防災隊の活動実績・計画

<蜂谷戸支隊の活動>

12月24日 町田市に対して区域内消火栓の増設要望書を提出

1月16日 「支隊長・ブロック長会議」(安否確認カード、要援護者面談、非常時の災害対策本部編成他)

ご存知ですか？…防災豆知識

<長野県北部地震の奇跡>

昨年11月に発生した長野県北部地震では、自主防災の観点から大変興味深い教訓が得られました。

それは、<“近助”と“事前準備”の重要性>です。

- ・同地震は震度6弱のかなり大きい地震で、重軽傷者40人、住宅損壊500棟という被害を出したにもかかわらず、死者はゼロでした。これは奇跡に近いと云われています。
- ・実は、何人かの高令者や幼児が倒壊建物の下敷きになったのですが、近所の人達がすぐに駆けつけジャッキ等で瓦礫を持ち上げて救助したのです。
- ・そして、これは決して偶然の奇跡ではありません。ちゃんと理由があったのです。
- ・実は、中越地震の教訓から、長野県の指導で「災害時住民支え合いマップ」というものを作成し、そこに要援護者情報を記入すると共に、誰が支援するかまで事前に準備して、これが実際に活きたということなのです。こういう準備が無ければ、発生当時は夜中で真っ暗だったこともあり、取り残される人が出ただろうと云われています。
- ・正に“近助”と“事前準備”の大切さを教えてくれる貴重な事例となったのです。
- ・蜂谷戸支隊で昨年アンケートを実施し、家族構成や要援護者を確認したのもこれと同じ理由からですが、まだ準備は完全ではありません。住民の皆様のご協力がないと準備が進められませんので是非ともご協力賜りますようお願いいたします。

耳より！…役に立つ防災ノウハウ

<非常用品備蓄の3原則>

非常用品を備蓄する場合に心がけた方が良い原則は次の3つです。

第1の原則「循環備蓄」

- ・「循環備蓄」とは、普段の食事に使用する食材を多めに買い置きしておき、消費した食材を補充することによって循環させつつ備蓄する方法です。
- ・乾パンに代表される非常用長期保存食品だけでは、①味覚的・栄養的に不十分 ②賞味期限を過ぎて結局無駄になる ③7日以上を備蓄するには費用とスペースが必要等の問題がありますが、循環備蓄によりこれらを解決することができます。

第2の原則「分散備蓄」

- ・非常用品を1か所にだけ備蓄していると、仮にそこが倒壊して潰れると全て使えなくなります。
- ・また、長期非常用品とは別に緊急持出用品は玄関等すぐ持ち出せる所に保管する必要があります。
- ・結論的には、緊急持出品は玄関、循環備蓄食品は冷蔵庫及びキッチン、長期非常用品は押入れや倉庫等と分散して保管することをお勧めします。
- ・車で外出していた場合や家屋が倒壊することを想定すると、車のトランクに最低の緊急非常用品を備蓄するのも1つの方法です。

第3の原則「備蓄の定期更新」

- ・備蓄している非常用品は、賞味期限・使用期限を定期的にチェックし、期限が迫ったものは早めに更新して使用し、無駄にしないようにしましょう。
- ・備蓄リストを作成し期限を入れておくと便利です。